

# 廊回

# 手から手へ

# 分業の



## 江戸木目込人形

埼玉県岩槻市

「人形を手になると、仕上の具合が良く分かるんですよと久夫さん⑤。先代の義用さんも、その感覚に信頼を置



多くの職人の手で作られる

それ、新しいサイザの発のどの成屋の店ののは担当で、きる、良い、一つ、人の、作るとも、

人形の同本で衣表の縫、目し当てる所や、しつが奇のまじ

て、作業する」と、同市で江戸木目込人形を作る「新

い



# 木目込人形

埼玉県岩槻市

「人形を手になると、仕上げの具合が良く分かるんです」と久夫さん⑤。先代の義男さんも、その感覚に信頼を置く



多くの職人の手から手へ、分業制で作られる江戸木目込人形

それぞれの職人でネットワークを作る。

新井人形店は、人形のデザインづくりから各職人への発注、木目込みや直しなどの仕上げを統括する「完成屋」と呼ばれる。「一つの店で、全部の工程をやるのは不可能です。各工程を担う専門の職人がいることで、良い物を作ることが出来るのです」と言う。腕の良い職人を選ぶのも仕事のひとつだ。かつて人形屋が職人の家の前で順番待ちの列を作って、夜を明かしたこともあったという。

〈スベア

ト

トーチ

料。大豆

ので、肉

のうまみ

▼材料

バラ肉(

に店で切

ぎ、しょ

酒大さじ

ニンニク

ツブ2、

さじ1、

各大さじ

コショウ

カップ2

油大さじ

イ4株、

遠い所

お母さん

ます。上

った私の

きりしま

と思ひ目

## 女の

って私を

が起きる

二、三回

繰り返さ

半は様

の人とた

活のすべ

# ふるさと 回廊

## 手から手へ 分業の技



江戸木目込

を作った、夜を明かしたこともあったという。

「何をやらしても、不思議と自分でうまくいった」と義男さんも感心するほど、久夫さんは木目込みの技術を器用にこなす。小さ

人形の胴体で衣装の縫い目に当たる所や、しわが寄りそ

な所に、細く、深く、筋を彫り、布の端を差し込む。この

木目込み作業を繰り返して、平らな布を丸みのある人形にし

わ一つなく着けていく。こうしてできる江戸木目込(きめ

こみ)人形は、十八世紀に京都で生まれ、幕末ごろ江戸

で盛んに作られた。胴体に、キリの木の粉とりのを混ぜた

ものを使うため、キリ産地として知られる埼玉県岩槻市に、

この工芸が根付き、「人形の町」になった。

高度経済成長期のころ、

マイホームブームでひな人

形の需要が一気に伸びた。

木目込人形は売れに売れ、

「近くの繁華街で石を投げ

れば、人形屋に当たる」と

言われるほど、人形の町が

活気づいた。

今でも冬場は、ひな祭り

に備え「睡眠時間を減らし

て、作業する」と、同市で

江戸木目込人形を作る「新

井人形店」の新井久夫さん

(四三) 大手人形問屋に就職

した後、先代である父親の

義男さん(七三)から同店を引

き継いだ。代目だ。

人形製作は分業制で、複

数の専門職人の手を経て、

作りあげる。頭を作る「頭

職人」、胴体の型抜きをす

る「抜き屋」、胴体に筋を

彫り込む「筋彫り屋」など、

いころから友だちには職人

の子供が多かった。遊びに

行く先々で人形づくりに触

れた。友だちの家には、そ

れぞれ独特のにおいと音が

あった。

「はさみで布を切る音、

のりのおいなど、人形売

り場で分らないことを五

感で感じた」と、久夫さん

は子供のころを振り返る。

今でも、その感覚を呼び戻

しながら仕事と向き合う。

他店へ修行し、技を学んだ

ことはない。人形の町で生

まれ育ち、伝統が体に染み

込んでいる。

農村文化